

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.11

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

水産加工会社が知的障害者の施設にイカの加工を委託

ここ数年、企業では業務の外注を促進していますが、水産加工・販売会社のツカサフーズ（南島原市口之津町）さまは、知的障害者通所授産施設ワークショップあさひ（長崎市西山）さまにイカの開き加工の作業を委託しています。

このことについて、ツカサフーズの大平雄一郎代表取締役と、ワークショップあさひの高倉務支援課長にうかがいました。

企業側

- どれくらい前から取り引きを始めたんですか？

大平さん「1年くらい前からです。共通の知り合いを通じて取り引きを始めたんですが、あさひさんも水産加工の取引先を探していたし、当社も手一杯だったので助かりました。」

- どんな作業を委託しているんですか？

大平さん「イカの開き加工を委託しています。具体的には、イカを解凍後、頭とゲソを分け、包丁での開き加工までお願いしています。」

- 施設に委託するのに、不安はありませんでしたか？

大平さん「うちでも知的障害者を始め9名の障害者を雇用しているのでも、訓練さえ積み重ねればできるだろうと推測できたので不安はありませんでした。」

- 海外に委託することは考えませんでしたか？

大平さん「今は消費者が食の安全に敏感なので、中国で加工した商品は消費者から支持されにくい。だから、国内で加工することが絶対条件です。企業でも施設でも、出来がよければ、消費者は支持しますよ。」

- 今後の展開を教えてください。

大平さん「とてもよくやってもらっています。条件が合えば、もっと発注したいですね。」



包丁を使って、イカを器用にさばっていきます。

施設側

高倉さん「大平社長とは当施設が水産加工を始めて間もない頃からお取引きさせていただいています。」

知的障害がある方が、包丁を使って作業をするというと驚かれますが、訓練次第で上手に使いこなせるようになります。

今後、水産加工の事業に携わる知的障害の方に最低賃金を支払えるところまでっていくのが目標です。」

施設への発注をご検討の方へ法人税の優遇措置のご案内

障害者施設との取引額に応じ法人税等の優遇措置があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する商品・サービスはこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

【今週の社会貢献事例】

知的障害者の施設に、水産加工会社がイカの開き加工を委託している。

貴社でも事業パートナーとして障害者の能力を活用することを検討してみたいはいかが？

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数：1638部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年11月7日(毎週金曜発行) 電話 **095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

松浦亜弥さんが、厚生労働省の障害者雇用支援運動「ATARIMAEプロジェクト」のサポーターに任命されたそうです(<http://atarimae.jp/>)。若い方にも障害者雇用を理解してもらおうきっかけになるでしょう。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.12

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

知的障害者のプロの和太鼓グループ瑞宝太鼓が全国で公演

全国で演奏活動をしているプロの和太鼓演奏グループ**瑞宝太鼓**（雲仙市瑞穂町）のメンバーは全員、知的障害のある方々です。

そんな障害がある彼らが、今年、地域の文化向上と活性化に貢献した団体や個人に贈られる**サントリー地域文化賞の受賞**という栄誉を獲得されました。

瑞宝太鼓はどんな集団で、どんな活動をしているのでしょうか？今回は瑞宝太鼓のある就労継続支援事業所の**前田康弘**所長にお話しをうかがいました。

- 瑞宝太鼓を設立した経緯から教えていただけますか？

前田さん「昭和62年くらいから、職業訓練施設にいた知的障害のある若者が、クラブ活動として和太鼓の演奏を始めたのが始まりです。その後、熱心に練習するにつれて、『**太鼓を職業にしたい!**』と夢が膨らんできたので、それまで勤めていた仕事を辞め、平成13年からプロの和太鼓演奏者として本格的に活動を開始しました。」



太鼓にかける想いが、
ステージで爆発する!!

- どんなところで演奏をしているのですか？

前田さん「全国各地での自主公演や、全国の少年院での慰問演奏が中心ですが、**スペインパラリンピック閉会式**や**ニューヨーク国連本部**など海外でも演奏しています。プロ活動を始めてからの7年間で**約700公演**、**約21万人のお客様**にご覧いただきました。」

- 公演にいらっしゃった方の感想は？

前田さん「『誰でも頑張れば何でもできると教えてもらった』など、嬉しい感想ばかりです。少年院で聴いた若者からは『**鳥肌が立ち、涙がこぼれた。今までの自分が情けない。社会に戻ったら、彼らに負けられないように頑張りたい。**』という感想文をいただき、『演奏し続けて本当によかった!』と感動してしまいました。」

- 今後の公演予定は？

前田さん「**12月4日(木)午後7時からチトセピアホール**(長崎市千歳町)で公演を行います。前売り券は大人2500円、小中高生・障害者手帳をお持ちの方1500円で、当日券はそれぞれ500円増です。」

- 最後にメッセージを。

前田さん「**ハンディがある瑞宝太鼓だからこそ、伝えられるメッセージがあります。**受験や就職活動などの困難に立ち向かっている若い方、大変なお仕事を頑張っておられる社会人の方、何か目標を探していらっしゃる方を始め、1人でも多くの方に聴いていただきたいです。皆さんの想像を超える演奏と感動をお約束します。」

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数:1638部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年11月14日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

私も瑞宝太鼓の公演に行ったことがあります。あの迫力はライブでしか味わえません。あんな演奏ができる彼らを見ると、「障害があることは、本当にハンデなのか?」と考えさせられるはず。12月4日(木)はたくさんの方に聴いていただきたいです。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.13

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

障害者が作る干支の置物を、三菱重工労組組合員が購入

来年の干支は牛。いくつかの障害者の施設では、干支の置物を作っていますが、**三菱重工労働組合長崎造船支部**（長崎市水の浦町）組合員の皆さんは、身体障害者通所授産施設**よろこびの里**（雲仙市小浜町）に通う障害のある方が作っている干支の置物を、20年以上前から毎年購入されています。

この取引について、三菱重工労働組合長崎造船支部の**濱田敏幸**部長とよろこびの里の**田中隆治**施設長にお話をうかがいました。

- 20年以上も前から取引をされているんですね。

企業側

濱田さん「はい。よろこびの里の干支の置物のチラシを作り、組合員に購入を呼びかけています。毎年、2500～3000個購入していますね。」

- 障害者の施設から購入する理由は？

濱田さん「地域に対して社会貢献したい、という気持ちがあるからです。その他にも、毎年夏冬に老人ホームで窓ふきや車イスの清掃をしたり、5月には児童擁護施設の子供を招待して一緒に遊ぶなど、ボランティア活動を積極的に行っていて、干支の購入もその活動の1つです。」

- いろんな社会貢献をされているんですね。

濱田さん「私達は組合結成以来、社会的責任を果たすことを目的に、ボランティア活動を進めてきました。『お互いに支え合うことの大切さ』などについて考え、『無理なく、楽しくできるボランティア活動』を通じて、『少しでも力になれば』と活動を展開しています。」

- 最後にひとことお願いします。

濱田さん「私達が干支を購入することで、障害のある方の働く機会が増えることになれば嬉しいです。そのためには、毎年購入を続けることが大切だと考えています。」



愛らしい牛と天神様。置物にまつわる民話も同封されています。

施設側

田中さん「当施設では、花柴の栽培・販売や、企業からの請負作業も行っていますが、1番の売上高を誇るものが干支の置物販売です。」

干支の置物は、長崎を代表する画家でいらっしゃる**小崎侃先生にデザインしていただき**、それを当施設の障害者が作っています。もっと質の高い商品を作れるように、施設全体で努力していくつもりです。」

施設への発注をご検討の方へ法人税の優遇措置のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

【今週の社会貢献事例】

労働組合員が、障害者が作る干支の置物を20年以上続けて購入している。

貴社でも障害者が作る干支の置物でお正月の準備をしてはいかがでしょうか？

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数：1636部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年11月21日(毎週金曜発行) 電話 **095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

新聞報道によると、障害者を初めて雇用する中小企業に、奨励金を支給する制度が創設されるそうです。経営者の方にとっては、障害者の採用・教育に要する負担が軽減されるはずです。是非ご活用ください。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.14

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

大村競艇場内で、障害者の施設が販売会を開催

10月24日と25日の2日間、**大村競艇場**（大村市玖島1丁目）で、障害のある方が作ったパンや織物などの販売会が開かれ、来場された方にご利用いただきました。

競艇と障害者という意外な組み合わせはどうやって生まれたのでしょうか？大村市競艇企業局の**渡辺真一郎**参事補と、販売施設を代表して、知的障害者通所授産施設**ワークショップあさひ**の**下妻克敏**施設長に伺いました。



レースの合間に、パンなどを
お買いあげいただきました。

企業側

- 競艇場で障害者施設の販売会とは、珍しいですね。

渡辺さん「当競艇では、お客様に競艇以外も楽しんでいただくこと、物産展やイベントを企画・誘致しています。付加価値をつけることで、多くのお客様にお越しいただくためです。」

- その中でも、なぜ障害者施設による販売会だったんですか？

渡辺さん「『新しいイベントを誘致しよう』と考えていたとき、長崎市内で開催されたイベントで、障害者の施設がお菓子などを販売しているのを見て、『商品もいいし、障害のある方のお役にも立てる！』と思い、早速、施設の方にご相談させていただいたんです。」

- また、施設商品を、ファンサービスに活用されたと聞きましたが。

渡辺さん「先日、女子選手のレースを開催したとき、ご来場いただいたお客様に、参加選手が景品を手渡すというファンサービスを実施しました。その景品として、施設で作っているクッキーをお配りしたんですが、お客様にも選手にも、かなり好評でしたよ！」

- 今後の販売会の予定は？

渡辺さん「お客様に定着するには継続することが大切なのでこれからも定期的にご覧いただきたいと考えています。今まで、障害のある方が作られた商品と縁がなかったお客様にも、ご理解していただけるといいですね。」

施設側

下妻さん「大村競艇場での販売会は、今年6月に初めて開催してから、10月で3回目を迎えました。」

パンや焼き菓子、陶器などをイベント広場の向かい側で販売させていただいており、催し物を見に来られたお客様が、昼食用やお土産用として購入されていました。

競艇場にいらっしゃる方に、違った楽しみも味わっていただきたいです。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**の一覧です。

詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

大村競艇では、障害者施設が作るクッキーを、お客様への景品として活用したり、障害者が作るパンの販売会を開催している。

貴社でも障害者が作った商品で、活性化を図ってみては？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数：1640部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年11月28日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

先日、「障害者就業・生活支援センターながさき」の主催で、企業の方を対象にした障害者施設見学会が開催されました。この見学会の様子は、今後のCSR通信でご紹介する予定です。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.15

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

長崎駅前かもめ広場で、障害者が作った商品販売会が今日から開催

毎週ご紹介しているように、県内の障害者福祉施設では、障害のある方が様々な商品を作り、販売しています。

その施設の商品を一堂に集めて展示販売を行う「ふくしフェスタ2008 in アミュプラザ長崎」が今日12月5日(金)から8日(月)まで、長崎駅前のアミュプラザ長崎かもめ広場で開催されます。

この販売会について、実行委員会の竹内一委員長にお話しをうかがいました。

- この展示販売会のことを教えてください。

竹内さん「障害のある方々は自立や就労を目指して、障害者福祉施設で商品製作に日々励んでいます。この『ふくしフェスタ2008 in アミュプラザ長崎』では、障害者が頑張った商品を展示販売することで、県民の皆様に関心を持っていただき、**障害者の所得向上と社会参加を一層推進**することを目的としています。」

- どんな商品を販売しているんですか？

竹内さん「県内の障害者福祉施設で作っているパンや焼き菓子、野菜、海産物、縫製品、陶器から、生キャラメルをはじめとした新商品まで、たくさんの商品をご用意しています。また、『直売コーナー』では、1袋100円のミカンやリンゴ、ホカホカの焼きイモポップコーンなども販売しています。」



目移りしそうな商品の数々。長崎市の田上市長も、(職員の方へのお土産に?) たくさん購入されました。

- 特に人気がある商品は？

竹内さん「しいたけやびわ茶など、健康によいとされる商品はよく売れますね。また、かわいい縫製品は女性に人気があり、なかでも化粧バッグは若い方、エプロンは年配の方を中心にご購入いただいています。」

- お客様の感想は？

竹内さん「『手作りで、原材料も明記してあり、安心できる』や、『手にとってみると、一生懸命作った様子が見える』など、大変ご好評いただいています。」

- それでは、販売日時を教えてください。

竹内さん「12月5日(金)～8日(月)の毎日10時～19時まで(最終日のみ18時まで)販売しています。」

- 最後にPRを。

竹内さん「商品の展示販売以外にも、いろんな景品が当たる**抽選会**やよさこいソーランなどの**アトラクション**も行いますのでご家族で楽しんでいただけます。長崎駅前で交通の便もよいので、お気軽にお越しください！」



オープニングセレモニーは、ちびっこ龍踊りで大盛り上がり！

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数:1638部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年12月5日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

かもめ広場では、本来、物品販売はできないんですが、障害のある方のためということで、特別に許可をいただいています。このようなご配慮も大きな社会貢献。本当にありがとうございます。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.16

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

障害者が作る凧を、保育園が教材として活用

今年も残り3週間を切り、お正月も間近。で、お正月といえば凧(たこ)揚げ。身体障害者通所授産施設 **福祉の里 松浦作業所**(松浦市御厨町)では凧を作っており、骨組みから糸巻き、絵柄のプリントまでの全工程を障害者が行っています。

今回は、福祉の里松浦作業所の**田中廣太郎**理事長と、凧を教材として使っている**昊天宮保育園**(大村市)の**池田さん**にインタビューしました。

- どんな凧を作っているんですか？

田中さん「長さ90cmの大凧から、長さ9cmのミニ凧まで様々でミニ凧はたったの0.2グラムですが、ちゃんと揚がりますよ。」

- 凧のデザインもたくさんありますね。

田中さん「**デザインはお客様に応じてプリントするので、200種以上は作ったはず**です。最近では、大河ドラマ『龍馬伝』や、洞爺湖サミットに合わせて、坂本龍馬や北海道の名所入りの凧を作ったところ。」

- どんなお客様が購入されるんですか？

田中さん「大口では、自動車ディーラーやハウスメーカーなどが**お土産用として、26都府県の幼稚園や保育所が教材として**それぞれ購入されています。また、お土産品店や居酒屋など全国に約150の委託販売店もあるんですよ。」

- 凧を作るうえで、心がけていることは？

田中さん「障害者だからといって、甘えは許されません。作業はゆっくりでもいいから、**正確に作ることを徹底**しています。1つでも雑になると、全ての工程に影響が出てしまいますから。」

- 今後の抱負を。

田中さん「お客様が喜びそうなデザインと用途がひらめいたら、サンプルを作って、見込みのお客様にご提案しています。この凧を全国に広めて、障害者の収入を増やしたいですね。」

施設側



壁には数え切れない凧が！

ミニ凧は、ライターサイズ(揚がります!)。デザインの説明も同封しています。



発注側

池田さん「最近の園児は外で遊ぶことが少ないので、凧はとてもいい教材です。なかでも、中凧は少しの風で簡単に揚がるので、**キャーキャー喜**びます。凧にプリントされている絵柄にぬり絵も楽しめる『ぬり絵凧』は1枚105円と手頃で、使い途がたくさんあるのもいいですね。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

障害者が作る凧が、教材やお土産として、使われている。

貴社でも、ロゴ入りの凧を作って、活用されてみては？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:1635部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成20年12月12日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

明日13日(土)午後1時20分~長崎市公会堂で、障害がある方々が芸術・文化活動の成果を披露する「**障害者芸術祭**」が開催されます。和太鼓など一生懸命演奏しますので、応援してください。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.17

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

14社の企業の方々が、障害者の施設を視察

以前、ある企業の方から「障害者の雇用や、障害者施設への発注の意義はわかるが実態がよくわからず、踏み出せない」というご意見をいただいたことがあります。

こんな悩みを解消しようと、障害者の就業と生活を総合的に支援する**障害者就業・生活支援センターながさき**（長崎市賑町）では、実際に企業の方に障害者の施設を視察していただく企画を実施しました。

参加されたのは、建設、食品加工、クリーニング、ソフトウェア関連など14社。どんな視察だったのでしょうか？主催者代表の**原一郎**所長にインタビューしました。

- 今回、施設の視察を企画された理由は何ですか？

原さん「企業の皆様に、**障害のある方々に対する理解を深めていただく**ためです。障害者の特性を知っていただければ、障害者雇用や、障害者施設との取り引きにつながると考えました。」

- どんな施設を視察されたんですか？

原さん「主に身体に障害のある方々がホームページ制作や縫製作業に携わっている**電腦工房**（長崎市牧島町）、主に知的障害のある方々がお弁当の用意や配達をされている**エリア21**（時津町西時津）とクッキー作りや企業から請け負った箱詰めなどの業務をされている**ながさきワークビレッジ**（長崎市西山）を視察しました。また、視察の途中で、長崎県雇用支援協会の小西課長に、障害者の雇用に伴う補助金のご説明もしていただきました。」



エリア21では、知的障害のある方が配膳してくださいました。

- 視察した企業の方の感想は？

原さん「『障害のある方が、積極的に資格取得に取り組むのに驚いた』『料理を丁寧に運んでくれた』『包丁を使う作業は、健常者よりも速い』など、障害者の能力について、ご理解していただけたようでした。ある企業の方は、**視察後すぐに『取り引きをしたい』と申し出てくださる**など、開催した甲斐がありました。」

- 今後も実施されるんですか？

原さん「時期は未定ですが、今後も継続して実施していきたいと考えています。次回もたくさんの企業の方に参加していただき、障害者について、もっと知っていただけるように努めたいですね。」

（写真上）ながさきワークビレッジでは、衛生管理も徹底されており、窓越しで視察
（写真下）電腦工房では、ズラッと並んだパソコンでホームページ制作の様子を視察



企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数：1636部

発行 長崎県障害福祉課（担当：村井）平成20年12月19日（毎週金曜発行）電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

「障害者と企業が無理なく取り引きしているな～」という事例を中心にご紹介しているこの通信、参考になっていますでしょうか？今年が本号が最後となります。来年はもっと上手にお伝えしたいと思います！

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.18

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

知的障害者の施設に、企業が業務を委託

企業が限られた資源を集中的に投資するため、中核業務以外を外注するケースが多くありますが、障害者施設と企業が委託契約を締結し、施設の障害者と職員のチームが当該企業内で業務を行う「施設外就労(企業内就労)」を、国が推進しています。

今回は、施設に園芸用肥料の袋詰め作業を委託している**江崎総本店**(諫早市長野町) **江崎秀樹**代表取締役と、知的障害者通所授産施設**諫早ワークス**(諫早市目代町)の**志賀正幸**施設長にインタビューしました。

発注側

- 施設に外注することになった経緯は？

江崎さん「ハローワークに出していた障害者の求人枠に、諫早ワークスを利用されている方が応募されました。面接したところすぐに雇用するのは難しいものの実習ならできるかも、と思い志賀さんにご相談したのがきっかけです。」

- 障害者に作業を委託したメリットは？

江崎さん「弊社が障害者を15年近く雇用している経験では、障害者を1人雇用して健常者と一緒に働いてもらう場合、職場定着が難しいと痛感していますが、『施設外就労』のようにチームで作業すれば、そんな問題は避けられる所ですね。」

- 作業を委託する時に、どんな点に気を配っていますか？

江崎さん「袋詰め作業だけでなく、機械の修理までできる権限を与えて、やり甲斐を持って作業できるよう配慮します。そしたら良い商品ができますからね。お客様から『**障害者が作っているとは知らなかった!**』と言われることが弊社の誇りです。」

- 障害者雇用に関心のある企業の方に一言。

江崎さん「健常者はきついことはしませんが、障害者が一生懸命作業する様子を見ると、健常者も態度が変わります。**障害者は、健常者のかがみ**ですよ！障害者を雇用することは親の代わりになるくらい大変ですが、ねばり強く接すれば、期待に応えてくれるはずです。」



(写真上)寒い屋外でも作業は黙々と。
(写真下)みんなで頑張ってます！

施設側

志賀さん「江崎総本店さまでは、当施設の障害者4名と指導員1名の計5名で作業をしています。企業で作業をすることで、集中力や体力が付き、就労意識が高まるので、保護者の方々も非常に喜ばれています。」

今後は施設外就労から雇用に結びつけることが課題ですね。」

施設への発注をご検討の方へ法人税の優遇措置のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の社会貢献事例】

企業が、障害者と健常者のチームに袋詰め作業を委託

貴社でも、障害者施設に業務を委託してみは？

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数:1681部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年1月9日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

江崎総本店さまでは慰安旅行もみんな一緒に行くなど、健常者、障害者の区別無く交流されています。江崎社長も障害者雇用については「オープンだし、全く自然体。」新年からいいお話をうかがいました。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.19

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

障害者の施設が、企業のホームページを制作

今では、情報提供や集客には欠かせなくなったホームページを活用して、売り上げを伸ばしているアパレル（洋服）販売のTAO KALEIDOSCOPE（タオカレイドスコープ）（長崎市万屋町）さまは、ホームページの制作を障害福祉サービス事業所**電腦工房**（長崎市牧島町）さまに委託しています。

取り引きの経緯などについて、TAO KALEIDOSCOPEの**清野希**専務取締役と、電腦工房の**草野大輔**職業指導員にインタビューしました。

発注側

- 電腦工房さんとの取り引き内容を教えてください。

清野さん「ホームページ（HP）の制作が主ですが、名刺・アドレスカード・年賀八ガキの印刷もお願いしています。」

- 発注することになったきっかけは？

清野さん「以前から電腦工房の施設長さんと知り合いだったんです。10年ほど前、弊社でも集客のためにHPを作ろうと考えたときに、『せっかくだから、電腦工房さんをお願いしてみよう』と相談したのがきっかけです。」

- ホームページの効果はいかがですか？

清野さん「デザインも綺麗だし、携帯でも見られる『たお速報』という新着情報をほぼ毎日更新しているためでしょうか、HPを見たお客様がたくさんいらっしゃいます。今では、**毎日120近くアクセスがあるんですよ！**」

- 障害のある方々にHPを作ってもらうことについては？

清野さん「身体は不自由でも、メールでやり取りができるので、何の問題もありません。値段は手頃だし、デザインの注文にもこまめに対応していただけるし、携帯サイトの制作もフォローして下さるし、とても助かっています。今は集客をHPだけで行っていますが、20歳代の学生さんからご年輩の方までご利用いただき、とても嬉しいです！」



(写真上)シックな雰囲気のHP。URLは <http://www1.cncm.ne.jp/~tao-tao/>
(写真下)私達が作ってます！

施設側

草野さん「HPは目的に応じてデザインを変えるようにしています。」

TAOさんはアパレル業なので色合いを重視し、写真をたくさん使って、**お店のイメージが伝わるように工夫しました**。多くの方にご覧いただき、作った甲斐があります！」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

企業が、障害者の施設にホームページ制作を委託

貴社でも、障害者の施設に業務を委託してみは？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数：1677部

発行 長崎県障害福祉課（担当：村井）平成21年1月16日（毎週金曜発行）電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

TAOさんのHPの中の「たお速報」は、清野専務の「いい商品ですよ！」という気持ちがあふれています。県外在住の方もHPをチェックして、お店に来られるとのこと。HPを存分に活用していらっしゃいました。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.20

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

金属加工メーカーが、知的障害者の施設に弁当を注文

障害者の施設では弁当を作っているところもありますが、弁当は毎日食べるものなので無理なく購入でき、弁当を作る障害者にも喜んでもらえます。

今回は、弁当を作っている知的障害者通所授産施設**平山友愛園**(長崎市平山町)の**林久男**施設長と、5年以上前から同施設の弁当を購入している**岩宗工業**(長崎市宮崎町)の**福田年明**代表取締役役にインタビューしました。

- 施設で作っている商品と特徴を教えてください。

林さん「主に、弁当、パン、縫製品を作っています。

弁当は予約注文制で、出来たてを配達しています。**冷凍食品を使わず手作り**だから、味には自信があります！そのためか、お客様から口コミで広がり、ご近所の事業所など1日約200食まで増えてきました。」

- パンと縫製品の特徴は？

林さん「パンは一般販売の他に、病院、高校、保育園などでご利用いただいております。売上げも大きく伸びています。」

「エプロンや帽子などの縫製品は、販売会の展示品を見た雑貨屋さんが『**うちで取り扱いたい!**』と申し出てくださるほどなんです！普段からスタッフが『どんな商品が売れているか?』と雑誌などでチェックしている努力は大きいです。施設の入口に商品を並べておくと、お見えになる業者の方などが買っていかれるようになり、今ではその売上げも半端じゃなくなっているんです。」

- 障害のある方が作業をされる様子を教えてください。

林さん「障害のある方々は、『もう、しなくていいよ』と作業を止められるのを一番嫌がるんです。**作業が生きがい**なんです。だから、施設としては仕事を確保することが責任を果たすことだと考えています。」

施設側



弁当は、衛生管理もバッチリ!

作業後のパンチームの皆さん。朝早くからお疲れさまです!



企業側

福田さん「5年ほど前から施設の弁当をとっていますが、肉と野菜のバランスもいいし、値段も安いし、配達員の知的障害のある方もちゃんと挨拶するし、**社員の評判はよか**ですよ~。」

「実は、施設の弁当に変える時に反対意見もあったんです。そこで『今の弁当と、施設の弁当と両方取ってみよう!』となったんですが、いつの間にか全員、施設の弁当に替わってしまいました(笑)。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

知的障害のある方が作った弁当を、企業の社員の方々が5年以上も前から利用している。

障害者が作った弁当を購入することで、社会貢献してみたいか？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2158部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年1月23日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

パンチーム担当職員の方は、朝5時30分!から作業場に入られるそうです。「大変なんだよ~」と笑顔でおっしゃっていましたが、昼食にいただいたもっちりとした食感のパン、本当においしかったです!